

# パラリンピックと 日本車いすテニス

文・小沢 剛  
(共同通信社)



◀開会式で日本選手団の旗手を務める上地選手

提供：共同通信社

パラリンピックの車いすテニスは1992年バルセロナ大会から正式競技となった。日本からは岩崎満男、大森康克、北本佳苗の3人が参加した。96年アトランタ大会、2000年シドニー大会ともメダルは遠かったが、04年アテネ大会で念願のメダル、それも金メダルを手に入れた。2回戦から登場した男子ダブルスの斎田・国枝ペアが準決勝で1セット失っただけで、決勝もストレート勝ちを収めた。2人はシングルスはともにベスト8で、シングルのメダルは次回北京大会に持ち越された。

08年北京大会で、国枝慎吾は男子シングルスで勝ち上がり、決勝でアメルラーン(オランダ)を6-3、6-0と圧倒して初の金メダルを獲得した。1回戦から6試合すべてストレート勝ちの圧倒的な優勝、前年グランドスラムを達成した実力を示した。斎田悟司は準々決勝でアメルラーンに敗れた。男子ダブルスでも国枝・斎田ペアが3位決定戦でオランダ・ペアを破り銅メダルを得た。



▲男子ダブルスで銅メダルを獲得した国枝・斎田ペア 提供：共同通信社

12年ロンドン大会は国枝慎吾が男子シングルス2連覇を達成した。決勝でウデ(フランス)を6-4、6-2で退けた。今回も初戦からの6試合で失セット「ゼロ」の完勝だった。女子シングルスは上地結衣がベスト8に食い込んだ。

16年リオデジャネイロ大会で、国枝慎吾は男子シングルス3連覇を逃した。肘痛があり、手術を経験、万全とは言い難かった。第6シードで臨み、2、3回戦は問題なく勝ち上がったが、準々決勝で全豪準優勝の第2シード、ジェラルド(ベルギー)の力強さに3-6、3-6とストレートで屈した。国枝は斎田悟司と組んだダブルスで、三木拓也・真田卓との3位決定戦を制した。

日本選手団旗手を務め、女子シングルス第2シードで臨んだ上地結衣は準決勝でファンコート(オランダ)に3-6、6-4、5-7で惜敗したが、3位決定戦ではデフロート(オランダ)を6-3、6-3と退け、日本女子テニス選手初のメダリストに輝いた。



▲上地選手は女子シングルスで初の銅メダル 提供：共同通信社